

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	臨床心理学分野
学籍番号	18S3017	院生氏名	喜多村 真紀
通学キャンパス	東京・赤坂		
論文題目	DV 加害者の自己主張抑制の特徴について： 一般成人男性との比較から		
審査結果（枠で囲む）	合格		
<p>&lt; 審査結果の要旨 &gt;</p> <p>本研究の目的は、ドメスティック・バイオレンスの加害者男性の自己主張抑制要因、特に、明確に主張せずとも自己の要求は充足されるべきとする特有の信念や、要求する対象との関係性の差異が持つ影響について明らかにすることである。本学の倫理審査委員会の承認(19-1g-110)を経て実施した調査研究の対象群は、DV 加害者教育プログラムに参加する成人男性 26 名、統制群は、妻らから DV 該当項目の指摘を受けたことのない成人男性 86 名であった。調査法としては、自己主張抑制尺度および自己愛的甘え尺度を用いて回答を求めた。</p> <p>その結果、DV 群は非 DV 群よりも自己主張を抑制する傾向が高かった。DV 群の自己主張抑制には親密関係での期待の高さの影響が強く、逆に社会的関係での期待は自己主張を抑制しない結果が示された。結論としては、DV 加害者の過度な対人緊張が、自己主張や開示を抑制すると考えられた。DV 加害者は、関係性の差異によって相手への態度傾向が異なることが示唆された。</p> <p>本研究の新規性は、DV 加害者の自己主張抑制の特徴を実証的に明らかにした点にあり、今後の再犯防止を目的とした臨床実践に有益な示唆を与える研究として高く評価できる。</p> <p>論文審査は12月2日に実施され、その後、審査委員による指摘事項に対して修正が適切に行われたことを確認した。口頭試問においても、適切な応答がなされた。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は、本論文が著者に博士（臨床心理学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 亀口 憲治</p> <p>副 査 丸木 一成</p> <p>副 査 平島 奈津子</p>		